

# 高退教

## 岡山

第172号

2023年4月

岡山県高校・障害児学校  
退職教職員会

〒703-8258

岡山市中区西川原255番地

岡山県教育会ビル3F岡山高教組気付

Tel (086)272-2245

Fax (086)272-2242

---

---

### 目 次

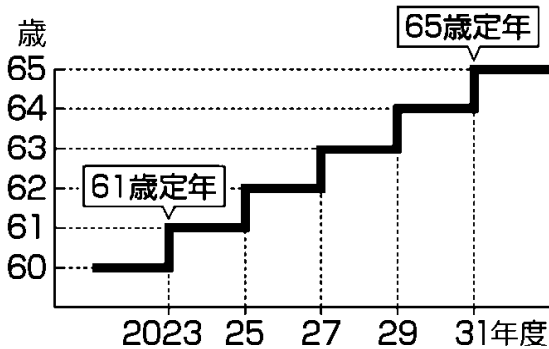
退職予定者の集い	事務局 美甘 晃	1
「生理革命委員会」	備西支部 武田 芳紀	2
【特集】春の交流会報告	各支部	3
【特集】長寿のお祝い報告	各支部	8
ソフト・テニスのおかげ（健康の秘訣）	旭東支部 小野 信義	11
健康体操の報告	岡山支部 難波 欽子	12
<b>連載</b> 「源氏の会」の10年（1）	備北支部 石井 美鶴	13
<b>連載</b> 出会いとスケッチの旅 ポルトガル編（2）	備西支部 水間 正雄	17
第1回新自然歴史探訪のお誘い	担当幹事 西 功	21
会費の納入についてのお願い	事務局	22
編集後記	編集部	23

# 退職予定者のつどい

事務局 美甘 晃

2月18日(土),「2022年度岡山高教組・岡山高退教退職予定者のつどい」が、西川原プラザで開催されました。

## 公務員の定年引き上げのイメージ



本年度は60歳定年制の最終年となり、今後は2年につき1年定年が延長され10年後に65歳定年制が完成することになります。この情勢をうけて定年前後の教職員の諸待遇に未確定の部分もあり、従来12月に開催していたつどいを2月まで遅らせて開催することになりました。つどいには退職予定者11名、高退教6名、高教組書記局2名が参加、和やかな会となりました。

高教組円戸副委員長、高退教藤原代表のあいさつにはじまり、高教組書記局からの全教共済の説明、高退教山本事務局長からの高退教の紹介、そして、旭東支部岸本さんから「私の定年退職後の8年間の生活」と題して報告をいただきました。定年後5年間再任用フルタイムの教諭として勤務、65歳以降は非常勤講師として現在まで高校に勤務している豊富な経験から、様々な教訓を提起していただきました。特に再任用の場合、同じ働き方をしても期末勤勉手当が定年前に比して半分になることや、非常勤の賃金についての不合理を指摘されました。

現段階では、再任用教員と定年延長世代の60歳以降の賃金を比較すると、給与水準はそれぞれ7割程度ですが、ボーナスについては再任用では定年延長世代のおよそ半分であることに加え、扶養手当が再任用では支給されないという問題も明らかになりました。今後の改善のとりくみが求められます。

参加者の多くが来年度もフルタイムの再任用として勤務される予定ですが、ハーフ勤務を選択したり、事実上の退職を選択される参加者もいらっしゃいました。交流では、やはり今後の生活設計に関心が集まりました。年末調整や確定申告、税金、そして資産運用に至るまで、さまざまな課題について、高退教の会員から、また退職予定者からもお互いの情報を提供して、今後の参考にと交流を深めました。

定年制延長にともない来年度は自己都合をのぞいて退職予定者はいなくなります。退職予定者のつどいも開催できませんが、高退教会員を増やすためにも再来年にむけて新たなつどいの内容などを今後検討していく必要があります。

つどいとは別に、3月27日、人事異動の発表を受けて高教組組合員の退職者を中心に83通の高退教入会案内を発送しました。4月4日段階ですでに2名の方の入会申し込みが届いています。情勢はどんどん変わっていきませんが、今後も高退教のとりくみを活発化して、豊かな交流の場を増やしていくことが必要だと思われました。

# 「生理革命委員会」という高校生が立ち上げたクラウドファンディングについて

備西支部 武田 芳紀

この2月から2か月間、「生理革命委員会」という県下の高校生が行ってきたクラウドファンディングが初期目標の200万円を集めきったことで、話題になっている。実は、後述する理由で私は〈まちか〉でこの活動を見ることのできる立場にあったので「後楽館高校」の生徒のメンバーからなるグループが



行っている「生理革命委員会」の紹介をさせていただく。この「生理革命委員会」というのは、コロナ禍で「生理の貧困」が叫ばれたことを背景としている。つまり、コロナ禍の下、経済的な理由から、生理用品の購入を制限している女性——どうしても削れない家賃、食費、水光熱費など除き、生活費を切り詰めるために、生理用品は後回しにしている「シングル」の女性、若い女性、学生などが広範に見られたことが話題となった。そして、高校でも当然、生理用品を「使えない」生徒が一定数いたのである（「生理の貧困」が確認できた）。そこで、その対策

として、「保健室」に行けば「生理用品」を渡してもらえるようになった学校も出てきた。「しかし、それで問題は解決したのか？」と「問いかけた」高校生がいたのである。それは「後楽館高校」の生徒たちで、同校の「総合的な探求の時間」を受講していた3人の生徒である。この授業で、「生理の貧困をやりたい」という提案をした生徒とそれに賛成した2人が、グループを作って取り組むことにしたのである。「生理用品（生理用ナプキン）」を保健室にもらいに行くのと、トイレに常備するのではあまり違いがないのかどうか、比較実験をすることした。先生方にも協力していただき、ある月は「保健室にもらいに行く」、翌月は「女子トイレに常備する」と二つの選択肢を設け、「実験」してみた。すると、「生理用品」の消費数は前月は20枚、翌月は506枚と25倍も違っていったという。また、このグループのメンバーは、〈生理＝女性〉という従来のステレオタイプな見方にとどまらず、外見は女性でも、実は男性であったり、その逆に外見は男性でも女性の機能を持っている人、つまりLGBTの問題もあわせて考える必要もあると問題を広げて考え、いわゆるSDGsにも関わるとりくみとなったのである。そして、結論として、「生理用品は保健室にもらいに行くのではなく、トイレに常備することが必要」と考え、そ

ここで、彼女たちは、実際に県下の公立高校の女子トイレに「生理用品」を常備するにはどのくらい費用がかかるかを試算して、200万円を目標にかかげ、2か月間にわたって、キャンペーンを繰り広げ、それをクラウドファンディングで達成しようと考えたのである。そして実際にその目標が達成できたのである！＜普通の＞女子高生たちが、先生方をはじめ、いろいろな人にも支えられているとはいえ、大きな目標が達成できたというのは本当に凄いと思われる。この200万円というのは、岡山県下の公立高校のトイレにトイレットペーパーと同じように生理用品を常備しておくことを県知事や県教育委員会に要望し、もし公的支援が受けられないなら自分たちでその費用を賄うと言うことで、とりあえず一年間分のものをそろえる費用として、この額にしたそうだ。そして、もし県知事や県教育委員会に交渉してその費用を捻出してくれるようなら、この集まったお金で購入した生理用品は困窮者の支援団体を通じて必要な方々にまわすとのことである！

ところで、このグループのメンバーの一人が「生理の貧困をやりたい」と提案したのは、彼女が祖母から「生理の貧困」の問題を聞いて、「それなら、自分達で取り組んでみよう」と思い立ったからだという。実は、その祖母というのが私の妻なのであるが、これは以前、本紙にも紹介した「憲法カフェ」で、妻がこの問題を取り上げた際、孫にも参加を呼びかけて、本人がそれを聞いていた、というわけである。そういうことで、私は彼女たちの取り組みの一部始終を見てきたというわけだ。そして、この取り組みの中で、彼女達はずいぶん成長もしてきたと思う。マスメディアにも取り上げられ、そこで、自分達の取り組みについて、堂々と述べている様子を見ると、現在の若者達の可能性をおおいに感じさせられた次第である！いずれにせよ、「生理の貧困」について、自分たちの置かれている学校という場で、その現状をアンケートなども行いながらきちんと把握し、その解決に向けての具体的な方法を自分たちで考え、まわりにも広めていくことは、SDGsの取り組みとしても評価できるし、現在の日本の社会が抱えている課題の解決に向けての力強い一歩となっているのではないだろうか。

\*\*\*\*\*【特集】春の交流会報告\*\*\*\*\*

## 「備西支部 春の交流会」IN笠岡

備西支部 清水 親義

去る3月23日、あいにくの天気ながら、2019年以来の「備西支部春の交流会」が広島県境に近い笠岡の地で開かれました。

集合場所は笠岡シーサイドモール。広い駐車場がある便利な施設です。

本来ならば、2020年に笠岡開催のはずが、コロナ禍による延期が重なっ

て、2023年の今年にやっと開催の運びとなった次第です。

参加者は11名。以前と比べると半減なのですが、未だコロナの影響も残る中での開催でしたから、二桁に漕ぎ着けたと知った時は、ホッと胸を撫で下ろしたというのが正直なところでした。

晴れていれば、笠岡ベイファームの広大な菜の花畑を散策する予定でしたが、雨天のため、「笠岡竹橋美術館（清水比庵展開催中）」を訪れました。

清水比庵は高梁市の生まれ。京都帝大を出た後、法曹界、実業会に身を置いていましたが、

請われて日光町（現日光市）の町長をつとめた異色の経歴の人です。歌人であり、書家であり画家でもありました。晩年は笠岡の地を愛し、墓所も芋代官の井戸平左衛門と同じ威徳寺にあります。

小野竹橋は、笠岡出身の近現代日本画を代表する日本画家です。10代後半に描いた絵が展示されていますが、既に群を抜いた才能で注目されていたようです。昭和51年に受章した「文化勲章」も展示品の中にあり、間違いなく一見の価値ありと言えます。



このような二人の作品を、独占的にゆっくり鑑賞できたのですから、考えようによっては、「雨に感謝」の時間ともなりました。

次に訪れたのは、カブトガニ博物館です。特別陳列として、「俺たちの標本作り」展が開催中で、甲殻類、貝殻、昆虫など、様々な種類の標本とその作り方が展示されていました。メインはもちろん「カブトガニ」で、様々な観点から

カブトガニに迫る展示に、しばし時間を忘れました。近年、医薬品としてカブトガニが人類に貢献していることを知って、認識を新たにしました。

ちなみに、訪れたこれらの二館は、共に「65歳以上無料」で、その分豪華な食事とあいなりました。笠岡に来て「お昼」と言えば、海鮮料理か笠岡ラーメン。

今回は「海鮮料理を！」ということで、地元でも評判の「若よし」へ。

二階に上がってみると、相対する席同士が離されていて、安心感のある配置となっていました。

支部総会は、お膳が並ぶまでの時間とし、目の前に料理が並んでからは、野暮はやめて早速の舌鼓。

やがて、参加者一人ひとりの近況報告と進みました。健康に関する講演の話、外国旅行記出版や海外で体験した実際の話、作った野菜を置いて自由に取ってもらう話、妻を勘違いの目で見ると夫の話等々。

やはり時間不足の感は拭えず、あっという間の交流会で、数年ぶりの再会なのに、話し足りない腹八分の会となってしまいました。

この物足りない分は、ぜひ、ぜひ、ぜひ、来年の会で取り戻したいものです。

## 備南支部 春の交流会

備南支部 綾野 保晴

2023年（R5年）3月31日（金）晴れ、桜満開、NHK 朝ドラ「舞いあがれ」最終回の日。4年ぶりの開催、今回は、旅人のレジェンド水間正雄さんの「出会いとスケッチの旅」と題した講演と交流、14名の参加者を得た。



12時30分、豪華(?)お弁当が届く。美味しく頂く。13時10分頃から、まず大量に持ってきて頂いた「旅のスケッチ」が一人4~5点ずつ机の上に配られる。スケッチにはコメントが付けられている。見て読んで右隣の方に送る。この間、質問・感想など随時発信し水間さんが答えるという形で進められた。冬眠ならぬ「コロナ眠」から目覚めたばかりの体からは、一向に言葉が出てこない。しばらくして、金光からJR とタクシーを乗り継いで会場に駆けつけてくれた O さんから「シニア割?、感動のイギリス体験」が語られた。シニア割の話に小さな花が咲いた。その後「犬をつれたホームレス」「物乞いの大金持ち」「ハイジの村」「よくぞご

**美術マガジン「つくりびと」** 無事で」「お城ユース」「ユースホテルの今」等々が話題になった。ハーモニカ演奏も加わった（水間さんは行く先々で、その国の民謡などが即座に演奏できる）。水間さんは「スケッチ、ハーモニカ、下手でも人とのつながりのきっかけを生む大きな武器となる。」「私たち一人ひとりが文化・芸術の素養を身に付け、それを実践することで、世界は少しでも平和に近づけるのではないか」と言う。芸術教育を何年もの間軽視し続けてき

た日本の教育を思うと、本当に情けない気持ちで一杯になる。

いま世界で最も注目されている日本画家の千住博さんは、10年余り前の慶應 MCC での講演で「芸術とは何か、それは、ある枠組み（制約）の中で、まったく異なるものが調和を奏でること。芸術的発想とは何か、それは、仲良くやる知恵を発揮すること。美とは何か、それは、豊かさ、人が生きることの理想。美的発想とは何か、それは、混沌の中に秩序を与えること。」と述べている。水間さんの「旅先でのスケッチ、ハーモニカの実践」は、まさに、芸術的発想、美的発想が具現化されたものだ気付いた。

全国の美術館情報とともに、注目のアーティストを紹介するフリーの美術マガジン「つくりびと」119号（2023年1月）に水間さんが紹介されている。そのページのコピーを添付する。

4月3日、NHK 朝ドラ「らんまん」がスタートした。牧野富太郎博士が残した膨大な量の植物スケッチから「牧野植物図鑑」は生まれた。水間さんの膨大な量の旅スケッチ。その集大成は……。

## 美作支部 春の交流会

美作支部 奥埜 貴之

4月11日(火)12名の参加により、美作支部学習交流集会を開催しました。

午前中、津山郷土博物館にて、学芸員の案内によって見学しました。その後「津山藩の成り立ち」というテーマで講演を実施しました。



戦国時代の津山は群雄割拠の地であったが、森忠政による築城・まちづくりにより平定され、現在につながる姿になったと知りました。

津山は大きな災害もなく、空襲もなく、古い街並みと建物が残っている全国でもまれな街であるとのことでした。

午後からはレストラン「あっちゃんの大きな木」に移動して、会食・交流を行いました。

全員が近況報告をし、老いを感じながらも(!?)それぞれが生活を楽しんでおられることが語られました。

来年春の再会を約束して閉会しました。参加の皆さま、ありがとうございました。



## 岡山・旭東支部 春の交流会

旭東支部 岡田 憲朗

4月17日(月)、天気が心配されましたが、朝からよく晴れて暑いほどの好天に恵まれました。ガイド付きでの後楽園散策です。3年間のブランクの後、やっと開催することができました。今回、後楽園にしたのは、前回の会報で「観光ボランティア」について原稿を書かれていた和田先生のおかげです。ある会議で和田先生が、「実は後楽園で観光ボランティアガイドをやっています。」と発言された後、じゃあお願いしよう、とその場で一気に決まりました。お一人が急用で参加できなくなり、26名が正門前に集合して、三つの班に分かれて入園しました。始めはまばらだった入園者もどんどん増えてきました。外国からの観光客の方が多いくらいでした。和田さんと二人の女性(小野田さんと佐藤さん)の3人がガイドをしてくださいました。後楽園の歴史・見所・今の時期の花などを、わかりやすく話してくれました。芝生広場で岡山城をバックに記念撮影をした後、お弁当をいただきました。少し値のはる弁当でしたがとてもおいしくいた



延養亭の前で



唯心山の頂上から



観騎亭の建物

できました。その後、観騎亭という鶴舎近くの建物に移動して交流しました。今日の感想やご自身の近況などを話していただき、アンケートも書いていただきました。来年の再会を期して2時前に解散しました。

主な感想を紹介します。

◎久しぶりの交流会で、懐かしい顔にお目にかかれて、話も弾んだ。対面での会話がなによりだった。(多くの方)

◎何度も来たことのある後楽園だが、ガイドの説明を聞くのは初めてで、知らないことがたくさんあって勉強になった。(多くの方)

◎いい天気の下、新緑を見ながら、ゆっくりと散策してリフレッシュできた。(多くの方)

◎昨年加入し、初めて参加させていただきました。後楽園の外周はよく散歩し



ますが、ガイド付きの散策をし、改めて魅力を知ることができました。早速年間パスポートを購入し後楽園を楽しもうと思っ  
てます。素敵な時間ありがとうございました。（正岡洋子さん）



交流会(観騎亭)

◎大変良い気分転換になりました。4年ぶり  
ということで、何年かぶりにお会いした方も  
おられて、お話しをすることができました。  
また、お元気な姿を拝見することができて、  
よかったですと思います。ボランティアのお話が  
よかったです。ただ見るだけでなく、説明がある

とよく理解できました。天気がよければ今年のようなことがよいですね。（横  
田廣太郎さん）

◎仕事をやめてはじめて参加しました。なつかしい顔を何十年（？）ぶりに見  
て、元気がでました。コロナ以来、様々な会の参加が中止になり、気分が沈み  
がちに所におさそいをいただき、大変ありがたかったです。（駒越丘さん）

◎新緑の美しい後楽園を  
ガイドの方の丁寧な説明  
で、ゆっくり堪能しまし  
た。外の空気を思いきり  
吸って心身共にリフレッ  
シュできました。それ以  
上に、久しぶりに懐かし  
い方々にお会いでき、交  
流ができ、いい一日にな  
りました。家に籠もりが  
ちの毎日、やはり人と会  
いお話しをすることは大  
切ですね。（島田宏恵さん）



芝生広場で記念撮影

\*\*\*\*\*【特集】長寿のお祝い報告\*\*\*\*\*

## 備北支部 長寿のお祝い

備北支部 土井 彰

2022年8月25日、コロナ禍の中で第1回高退教幹事会が開催されました。事務局から長寿の祝いのメンバーが公表され、備北支部には3名の先輩がおられました。

私が現役時代にお世話になった先生、現在の幹事にと紹介いただいた？先生もおられます。三人中お二人は真備町の豪雨災害に遭遇されておられます。

前回の長寿祝いは藤原洋平先生と私が、入所されている施設を訪問してご本

人とご家族に直接記念品をお渡しし、芸術談義に時を過ごしました。

今回も先生方の顔を見て直にお渡ししたかったのですが、コロナが猛威を振るっている最中、郵送をもって失礼いたしました。県事務局からのお祝い品に備北支部からの祝いの言葉と気持ちを加えて郵送させていただきました。

すぐに、多田久生先生からお元気な声で謝礼の電話が入りました。先生は災害にあわれ、今は倉敷にお住まいです。「歴史探訪はやらんのか？早う計画せえ！」とお元気です。

しばらくして、岡本忠先生からお葉書が届きました。内容は謝礼と遅れの件でした。実は出したつもりの葉書が手元で見つかり、再度書き直して投函されたようです。先生は、今も倉敷の昆虫館に通われておられます。

その後しばらくして、杉ノ原東洋先生から謝礼のお手紙をいただきました。先生は体調を崩されて入院をされておられました。真備で被災されて現在、金光町にお住まいです。

私たち、高退教の仲間は皆、似かよった環境にいると思います。目を見開いて周りを見、自分の今を見つめて、これからも挑戦しましょう。

## 備南支部 長寿のお祝い

備南支部 綾野 保晴

対象者は、武田昭一さんと、山縣武次郎さんです。

武田先生は埼玉県在住で、所用で児島に来られたときにお会いしてお茶をしました。そこでお祝いのお品を渡しました。

山縣先生は、郵送でお祝いのお品をお届けし、後日、もう少しコロナが収まった頃を見計らって、お祝いの会をご案内しますと連絡したところ、「お祝いの会」は有難いことですが、感謝を胸に刻み、ご遠慮させていただきます。という返信を頂きました。

ということで、「お祝いの会」はしていませんが、今年の夏に、山縣先生は武田先生に児島でお会いになっていました。私が武田先生にお会いしたのも、その頃、同じ伊川展です。あ～このチャンスをとったが後の祭りでした。

山縣先生からの返信（抜粋）

「このたびは祝長寿のプレゼントをいただき恐縮しています。ただに馬齢をかさねているうちに八十路に入っていました。機関紙「高退教」を読み、各位が豊かな晩年を送っておられるのに接し元気をもらっています。「お祝いの会」は有難いことですが、感謝を胸に刻み、ご遠慮させていただきます。武田先生には、今夏、児島での伊川展でお会いし久闊を叙しました。元気でした。

伊川展

児島を拠点に活動していた画家の故・伊川巖さんと生前に親交のあった画家たちによる作品展で、武田先生の作品も数点展示されます。今回、正式名称は「伊川巖仲間3人展」だと思います。武田先生は、埼玉から遠路はるばる作品を持って車で児島を訪れます。いつまで続くかなーとおっしゃっていました。

## 岡山支部 長寿のお祝い

岡山支部 難波 欽子

今年度は三名の方々がめでたく、85歳になられました♪しかし、コロナ禍に邪魔されてお目にかかることができないままに、ついに僅かなお祝いの品を郵送するという申し訳ないかたちにさせて頂きました。その為、最近のご様子を報告できないことをお許し下さい。

先輩達は私と五歳しか違われないので、高教組時代から長い間お付き合いをして頂きました！

八木和一氏はお名前よく聞いていて、同じ分会だった方は優しい分会長で共に活動しやすかったと話されます。西大寺高校勤務を最後に雄町にお住まいです。

篠原和子さんは力強い、生活経験の豊かさがにじむ川柳は教室を開かれて、前々会長岩本氏も学ばれました。短歌や川柳をこれでもかとあらゆる場面に発表され、高く評価されています。作品展では展示の仕方にも、全力で取り組んで見本を示して頂きました。

金田光代さんは同業の体育教師でなく技術家庭科専門かと惑わせる技は今もお持ちで、編み物は凄すぎです。50年前には、井上倫子婦人部執行委員、金田光代市立南海執行委員、難波婦人部長で婦人部トリオで苦勞をしながら輝きました♪

## 旭東支部 小野信義先生 長寿のお祝い

旭東支部 岡田 憲朗

11月2日(水) 小野先生のご自宅に近い岡山ガーデン(旧両備ガーデン)で待ち合わせをして到着すると、イベントで全館貸し切りで入ることができません。おさふねサービスエリアに移動しました。

まず、会長からの挨拶文、会からのお祝いの図書券、支部からのささやかな品をお渡しして、お話を伺いました。

始めは中学校で勤務され、その後高校に移られて、玉野高校などを経て、西大寺高校を最後に退職されたということです。その後、長島愛生園付属の看護

学校に17年、77歳までお勤めになったそうです。

長年テニスをされていて、非常にお元気そうで、68歳の私よりもよほど若々しく見えました。

帰り際に、先生の『青き我が山川』という著書をいただきました。ご自分で印刷、製本されているものでした。後で読ませていただいて、幼少期を中心に、戦中、岡山空襲、戦後の話が、生き生きと描かれた内容で、感動しました。

また、会報の原稿をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。驚いたことに、その日の夕方にメールで送られてきました。まさに、神対応で感謝です。毎回、支部の原稿をどうしようかと悩んでいたところですが、「困ったときの小野先生」ということになりそうです。その時はよろしくお願いします。



#### 会費についての会則

○年額2,500円

○入会時に11年分の会費として25,000円（10年分に相当）を一括前納できる。

○年度内に85歳に達する会員に長寿の祝いをし、以後の会費を免除する。



## ソフト・テニスのおかげ(健康の秘訣)

旭東支部 小野 信義

先日は私の85歳の「長寿お祝い」ということで、会長さん、また旭東支部の係の方から予期せぬお祝いの品々をいただき本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

退職してから子供や孫のことなど平凡ないい意味であれこれ気を揉んでいるうちに、気がつけばいつの間にか男性の平均寿命を超えているといった感じで25年が経過しました。ということは、家族を含めて自分も病気とか事故とかそういう年齢から言えば起こりがちな問題がなかったのが幸いしたのでしょうか。そういう意味では平穏でありがたい25年であったと思います。

それで改めて健康の秘訣はと訊かれれば、肉体的には週に3～4日ラケットを振っているということになりましょうか。ラケットを持つだけではだめで、10メートル四方あるネットから手前の自分側のコートの上を前後左右に、相手が打ってきたボールに合わせて、それこそ迷路のコマネズミのように走り回らなければなりません。というのは頭の中だけの話で、実際は四畳半ほどの範囲を右往左

往しているのが関の山なのです。歳に免じて、若いと言っても私より一回りほどの仲間が多いのですが、その時のパートナーに体がついていかないのを許してもらいながらプレーしているのが現状です。従って迷惑を掛けることが多いのですが、それでも身体を動かさないよりはましと自分に言い聞かせ自己満足しているのですから、傍迷惑もこれ極めりです。



食はここ数年次第に細くなり、妻にもう少し食べたらとつつかれますが、胃袋に勘弁してくれと言われます。若者でもあるまいに大きめの茶碗に2杯はどうしても喉を通りません。ただ、食卓のほとんどの野菜は家で栽培していることもあって、味利きの意味もあり自慢気に腹一杯に詰め込むのが習慣になっています。

精神的には、クラブのコートの中のベンチに座って、仲間と新聞記事や家庭のことを話題にして議論、情報交換することで抱えた鬱憤を晴らす、そういうことで私の気持ちが安定するのでしょうか。70代80代の仲間の中には「喧嘩しているかと思えば打ち合わせ」のようなマスクを外し、耳元で会話をし合う仲間もいます。その様子を見ながらお互いを許し認め合う、そういう雰囲気満ちているクラブにいてもストレスがたまらないのだと思っています。もちろん時にはというよりしばしば私もその耳元仲間に入れてもらっています。

趣味と言えば、テニスもその中に入るのでしょうが、私自身は趣味と言うより「生き甲斐」になっています。そこで他のものを挙げよということになりますと、面白くもない小説や随筆を書くことでしょうか。得意げに子や孫に読ませて、感想を強要する身勝手なうるさい爺さんと陰では呼ばれているようです。書くことは若い頃から多少手がけてはいましたが、コロナ禍で家に引き籠もった時期があったのが拍車をかけた元凶です。

お祝いをいただいたのを機に、テニスも書くことも、もうひと踏ん張りしたいと思っています。

## 健康体操の報告

岡山支部 難波 欽子

前々真向法体操会長、中務さんの頃から20年近く続いている年に一度だけの体操教室を今年も、岡山市北区津島東の岡北学園をお借りして、開きました。

今年は会場費に当たる3千円を組んで行事らしくしたので、多数の参加がないと申し訳ない場面なのに、私の知人を入れても五人でした。広い軟らかいフロアで太陽を浴びながら、半田山植物園や園内のサクラをめでながら、贅沢な二時間でした。

来年からは、時期、場所、やり方を変えていくべきでしょうか？皆さんに気楽な、続けられる身体のメンテナンスをして欲しいと願っています。

## **連載** 「源氏の会」の10年（1）

備北支部 石井 美鶴

今年の2月で『源氏物語』を読む会が88回を迎えた。いつの間にか10年目になっていた。思い出をすこし書いてみたい。

それは2014年、秋山奎子先生からの電話で始まった。秋山先生は勅使河原和風会を主宰される華道の先生であるが、私にとっては人生の節目節目のピンチにさりげなく手をさのしべてくださった恩人である。

『源氏物語』を読みたいので来てくれないかと言われる。私は残念ですがちゃんと読んだことも勉強したこともないので無理です、とお断りした。それでもいいと言われる。

『源氏』は学生の頃読もうとしたことがあった。国文の学生だから読まないといけないと思ったのだ。筋が分かろうと分かるまいとどんどん読んだ。当時は精読ということを知らなかった。だからどこまで読んだのか確たる記憶が無い。同じ頃、数学科の友人が『源氏』を読了した。いい加減な読み方で途中までしか読んでない自分は『源氏』の感想を語り合うことはできなかった。恥ずかしかった。

そのまま教員になり教員を終えた。途中ラジオで鈴木一雄先生の『源氏』の講義を聴いたが、聴けないことも多く、取ったテープを再生することも無かった。その頃新聞で長谷川町子さんが『源氏』の前にラジオで連載されていた『平家物語』のテープを何回も聴き直されているという漫画を見た。箱にぎっしりの『平家物語』のテープを枕元に置き、寝転んでカセットテープに耳を傾ける町子さんの漫画は今でも覚えている。

そんな具合で自分に『源氏』を語る資格があるとは思えなかった。なのに引き受けた。ちゃんと読み直したいと思ったのだ。

こうして月1回の読書会が始まった。

準備は2か月程。原文の通読は自分の力では無理だ。田辺聖子さんの源氏は面白かったが通釈ではない。脚色してある。谷崎潤一郎・円地文子訳は途中で挫折していた。そこで瀬戸内寂聴訳を読むことにした。新品だと2600円がアマゾンだと1冊2～300円。1円というものもあった。美しい絵の箱入りのほぼ新本が届いたときは寂聴先生ごめんなさい！と思って読んだ。

とりあえず読んだもののよく分かったという実感は持てなかった。焦点の定まらない、通り一遍のあらすじの紹介で「源氏の会」をスタートすることになった。

会場は水攻めで有名な備中高松城にほど近い小山の秋山邸。メンバーは10人（現在は9人）。皆さん長年にわたる秋山先生のお花のお弟子さんたちだ（私も教員生活の終わり頃習い始めたが早々に脱落）。私が最年少であった。

皆様とても温かい。拙い、しどろもどろの話を終えると拍手してくださるのにはびっくりした。

よちよち歩きで「桐壺」の巻から読んでいくことになった。

メンバーの方々はとても積極的だ。原文を音読するとき、全員で実にはっきりした声で読んでくださる。音吐朗々と言ってもいい。質問すると、わかれば必ず答えてくださる。高校生だとそうはいかない。

また人生経験が豊富である。きわどい恋の話もできる。国内外を問わず旅のご経験も豊富だ。歌枕も頭の片隅に入っておられる。現在やっと「須磨」の巻に到達したが、百人一首の「淡路島通ふ千鳥の鳴く声に幾夜寝覚めぬ須磨の関守」をイメージされていると思う。高校生だとうちはいらない。

なんと言っても植物にお詳しい。長年生け花にたずさわっていただけるだけあって、花や草木がでてくると身を乗り出されるという感じがする。何度も花や木について教えていただいた。

そのころ出た質問が忘れられない。「当時の人はそんなに恋愛ばかりしていたのですか。生活の実態が知りたいですねえ」と訊かれたのである。まったく同感だが即答できず、わかったらお伝えしますと言った。しかしその後満足なお答えは実はできていない。

始めてみると、メンバーの方々には生け花に打ち込んでいただけるだけではないことがだんだん分かってきた。秋山邸では、別の日に美術の江口先生による絵の会、難波欽子先生の真っ向法体操の会がもたれていた。書道・太極拳・演劇活動・こどもたちとの活動などに打ち込まれる方、高名な茶道の先生などもいらっしやることがわかってきた。やがて「源氏の会」の後、真っ向法体操を教わることになった（コロナ以後中断）。

## 投扇興で百人一首に横道

しばらくして秋山邸で「投扇興」の会が開かれた。京都のお茶屋の旦那芸だろうくらいに思って参加してみると、なるほどいかにも優雅な伝統文化的ゲームだった。

毛氈を敷いて、真ん中に箱枕のようなものを立て、対戦者が向かい合って座る。審判がおごそかに「契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山波越さじとは一」と唱えて投扇興は始まった。

対戦者は箱枕の上に立てた銀杏の葉っぱ型の「蝶」に向かって交互に扇を投げて得点を競う。得点は、扇が的に当たった後、あるいは当たらなかった後、扇と蝶と枕がどんな位置関係になったかによって決まる。その決まり方はとても複雑で独特である。それゆえに面白く、得点が判明すると歓声が上がり、

大いに盛り上がった。対戦者は扇の投げ方に工夫を凝らす。

得点表には扇・蝶・枕の組み合わせを示す絵が 30 種類とその得点を書いてあって、それぞれに「初霜」「かりほの庵」などと名がついている。そう。百人一首の言葉が銘になっているのだ。

そこで、得点表の「軒端」とか「因幡山」とかはすべて百人一首のことばなのだということを知っていただきたいという思いがめらめらと湧いてきて、百人一首を源氏と並行して読んでいくことにした。

始めてみると、皆様それぞれにすでに百人一首と馴染んでおられて、現役時代の昼休みには毎日百人一首を取っていたという方もいらっしゃった。暗誦にも熱心に取り組んでくださった。

まず「契りきな…」の歌と得点表の 30 首の計 31 首を、得点表の順番で、月 1 首のペースで読んでいき、残りの 69 首は百人一首の普通の並び順で取り上げていった。終わりに近くなると、つまり選歌した藤原定家の生きた時代になると、緊迫した息詰まるような空気が行間から立ち上ってくるような気がした。百人一首はランダムに並んでいるのではなく、特別な意図で編集された、古代から奈良、平安までの天皇や貴族たちのコンパクトな歴史であることが次第に実感されてきた。

藤原定家に選歌を依頼した宇都宮頼綱は、北条時政と牧<sup>まさ</sup>の方（「鎌倉殿の 13 人」では坂東彌十郎と宮沢りえが演じた）の娘を妻にし、頼綱の娘は定家の嫡男の妻となった。自らも歌人で、宇都宮歌壇と呼ばれるほどの文化圏を形成したらしい。それ程の人物の依頼で、マニアックな定家が生半可な選歌をするはずがない。承久の乱後の微妙な情勢の中で、定家は百人一首の末尾に流罪となった後鳥羽院・順徳院父子の歌を置くことができず、定家の死後、息子によってやっと現在の形に改められたという。百人一首は複雑な謎と魅力をはらんでいた。

百人一首で日本各地の歌枕、植物、季節の感じ方、そして恋の種々相に触れたことは、源氏物語を読む上での貴重な下地になったと思う。とりわけ和歌を読み慣れたことは大きい。歌物語の伝統を引き継ぐ『源氏物語』は、ストーリーのクライマックスが和歌になることが多い。和歌は普通の散文よりやはり難しい。しかし難しそうな和歌も考えさえすればなんとか理解できるという経験は『源氏物語』理解のハードルをいくらか下げたのではないかと思う。

## サネカズラから玉鬘へ

2017年の7月に25番「名にしおはば逢坂山のさねかづら人に知られでくるよしもがな」を取り上げた。そして「さねかづら」には男女が「寝る」ことが、「くる」には男が「来る」ことと、男を「手繰り」よせたいの「繰る」が掛けられていますねえ、などと確認した。ところがその年の秋になると、赤く熟した「さねかづら」の美しい枝を欽子先生が持ってきてくださったのである。写真でしか見たことの無い「さねかづら」は木苺を少し大きく



した感じで、ルビーのような集合果がつやつやと透明感があってホントに美しい。「名にしおはば…」の歌から、恋人の訪れを待ち焦がれる狂おしいまでの思いがなまなましく伝わってくるようであった。

その後、『源氏物語』に登場するヒロインのひとり「玉鬘」は、その名が「さねかづら」に由来するという文章にであった。何冊か当たってみたが「玉鬘」が「さねかずら」だと書いている本は見つからなかった。でも執筆者である京都府立植物園名誉園長の松谷茂先生は

「『源氏物語』に登場する女君玉鬘は、源氏が愛した女性の一人夕顔の忘れ形見。美しく光り輝く玉鬘（＝サネカズラ）をたどった先には、母親の夕顔（ウリ科、ツル性の一年草）が見守っている。ツルがとりもつ親子のきずなを表現しているように思います」

と書いておられ、「玉鬘」は「サネカズラ」であることを毫も疑っておられない。私はかねてから「玉鬘」とはどんなカズラなのだろうと疑問に思っていた。欽子先生が持ってきてくださった実物を見て、松谷説を読み直して、物語の中の玉鬘像のピントが合ったような気がした。ピッタリだと思った。サネカズラの実は美しかった。

えもんどう

## 衣紋道

「桐壺」の巻を読んでいた頃、美術の江口先生が、「衣紋道高倉流『光君加冠の儀』」のチケットをくださった。桐壺更衣の実家で若宮（光源氏）が誕生し、帝から守り刀や産着が送られる場面から、光源氏が12歳で元服し、顔の両脇で結った「みずら」を解いて、頭上に「髻」を結び、「冠」をかぶる儀式までの場面が、市民会館の舞台一杯に繰り広げられた。皇室や公家の人々の装束や儀式、暮らしぶり、そしてその規模がわかり、源氏物語の理解に本当に役立っている。

## 夕顔はどんなヒロインか

「夕顔」の巻については昔授業で困った思い出がある。こんな場面である。17歳の光源氏は、五条に住む乳母を見舞った時、門が開くまでの間、通りで待つことになった。源氏が牛車の中から外を覗くと、隣家が目に入った。源氏は隣家の板塀に咲く白い花に興味をそそられ、その名を問うと、お供の隨身が答えた。

「あの白く咲いているのは夕顔と申します。花の名は人めきて、かうあやしき垣根になむ咲きはべりける」（花の名は人間ぽいですが、こんなみずぼらしい垣根に咲きます）

源氏は言う。

「くちをしの花の契りや。一房折りて参れ」（残念な運命の花だね。一房折ってこい）

門を入った隨身を、隣りの家の中から出てきた女の子が戸口に招いて、

「これに載せて差し上げてください。枝も情けなげなめる花を」（枝も

風情が無いような花ですので)

と言って、香をたきしめてある白い扇を手渡した。その扇には  
「心あてにそれかとぞ見る 白露の光添へたる夕顔の花」  
と書かれていた。

この扇に書かれた「心あてに…」という歌がよくわからなかった。教科書の注には、

①当て推量ですが、そこにいらっしゃったのは光源氏さまではないかと存じます。白露の光によっていっそう美しく輝く夕顔の花のように美しいあなたさまは  
という意味だと説明されていた。

えっ、なんで、牛車から離れた家の中からすだれ越しに見ている女に、牛車のすだれから覗いている男が光源氏だと判るの？ 面識も無いはずなのに。なんで歌の中の「夕顔の花」が光源氏のことだと判るの？ 夕顔はヒロインのニックネームじゃなかったの？

私は混乱した。『源氏物語』を読み込んだことがなくて全体や細部が頭に入っていないからわからないのかも知れないと思った。授業はもやもやしたまま「この歌はこういう意味ですネ……」とか言って早々に通過したように思う。

## 連載 出会いとスケッチの旅 ポルトガル編(2)

備西支部 水間 正雄

### バターリア

翌日バスでバターリヤに行き、カルロス邸を訪れてみると、彼のお母さんは画家だった。両親ともに英語は通じなかったが、ランチをワイン付きでご馳走してくれた。

お母さんの似顔絵を描き、それを持った夫妻の写真を撮った。

カルロスが帰宅すると夕食にも招待してくれ、近くのりんご農場にある2客室の台所付きの別荘に案内し鍵を渡



滞在した別荘(りんご果樹園のファームハウス)

してくれた。この別荘で自炊しながら、時々カルロス邸に招待されたり、姉さん家族の家に招かれたり、世界遺産の修道院をスケッチしたり、カルロスが仕事に行く途中で車を降ろしてもらって、名所旧跡を訪れてスケッチした後、帰りの車で拾ってもらったり、等々して過ごした。

カルロスが紹介してくれたリーズナブルなレストランで、ランチのビジネスマン2人が隣に座った。会話が途切れた様子の時に絵葉書を渡して少し話した。食事を終えてレジに行くと「あなたの代金は先の方から頂いています。」



勝利の聖母マリア修道院  
(右の3つの塔の屋根が未完成)

と言われた。「今度はわたしが…」と思いながら何度かランチに入ったが会わずじまいになってしまった。

男女生徒がグループでバスを待っているのに出会った。先生らしき女性がいたので、「元日本の高校の教員の旅人だが学校見学が可能か。」と聞くと「可能だろう。」との返事だったので、同じバスに乗った。学校に着くと、彼女が校長に紹介すると言うので、暫く待っていると

校長が出てこられて校内を案内してくれた。

日曜日にバタリーヤ修道院の広場の蚤の市で声がかかった。レイリアユースホステルの受付をしたマネージャーのジョアンだった。骨董が趣味で、奥さんと小学校入学前後の娘さんと一家総出で店を出していた。面白そうなので私も手伝うことにして、「買ってくれた客には絵はがき1枚進呈」を提案した。そのうち絵葉書そのものが10枚完売した。また「買ってくれた人には似顔絵無料」との張り紙を書いてもらった。描いて渡すときに何人かから「どうしても…」と私のポケットにお金を振じ込まれた。その夜、彼の家にも招かれて広い部屋に所狭しと並べられた骨董を見せてもらい、娘さんのベッドに泊まった。

その後、何度もお邪魔して親族のビール・ワイン付きの昼食会や夕食会にも招待された。また、他の街でのフリーマーケットの手伝いも楽しんだ。ジョアンの近所の教会などをスケッチしていると人が寄ってくるので、絵はがきを渡したり、似顔絵を描いたりしていると、近くのスーパーでビールを買ってきて差し入れをしてくれる人もいた。

また、高校生の男の子が寄ってきて日本語や日本についての知識を披露した。ネットでの日本語の学び方を説明してくれ、美空ひばりの歌詞の英訳も依頼された。

次の日にはお母さんが来て、自宅へ来て泊まってくれと誘われたので応じることにした。一人っ子の母子家庭で、子供が学校とも馴染んでいない様子を心配していたので、次の日の下校時刻に高校に行ってみたが、イジメや無視などでは無いようで、親しい友人がいなくても平気で、気にしている様子はなく、すぐに日本語の画面を出して質問攻めになった。日本に来ることを真剣に考え



サンタマリア修道院



ジョアン家族が住むアイル町の新旧教会

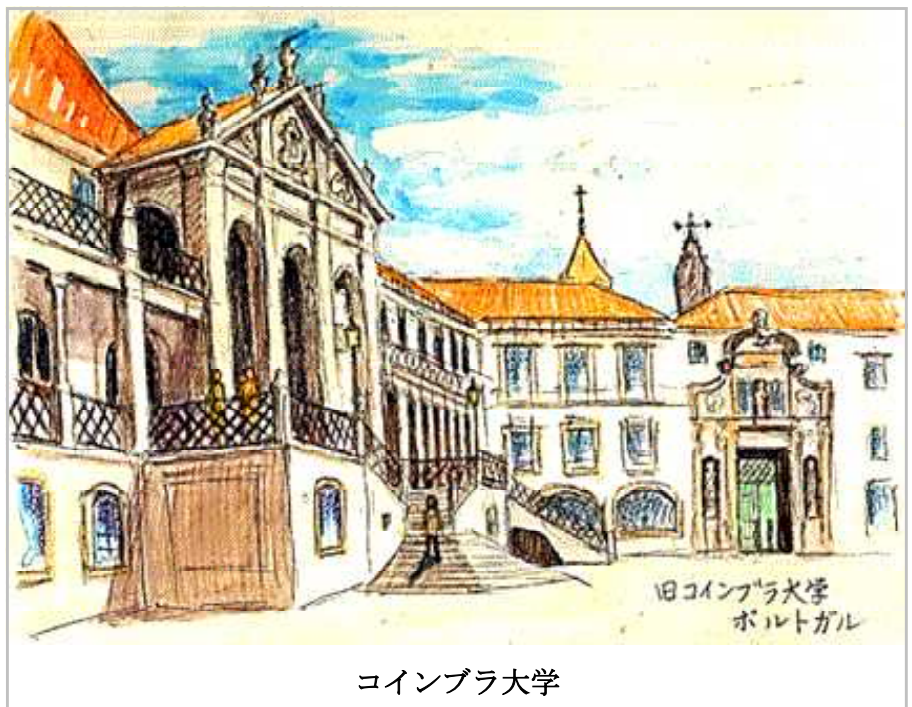
ている様子だった。帰国してからも電話をしてきた。

近くに鉱山跡があり、エレベーターで地中深く降りる採掘場跡が観光地になっている。係の若者が「日本に興味があり日本で学びたい…」というので、私の住所とTELを知らせた。彼とは無料で案内してくれる仲となり、暇な時間に行くとコ

ーヒーを出してくれてよく話した。

### コインブラ

ユースホステルで、ドイツの巡礼と手作り料理を持ち寄って夕食を共にした。4つのキャスターを付けた荷物入れに自動車のシートベルトの着脱装置を取り付け、背負わずに腰で引いて進める車を手作りしていた。私が「いつか、パリからの巡礼道を歩いてみたい。」と言うと、「今回でも使ったら？」と寝袋をくれた。



コインブラ大学

コインブラ大学をスケッチしていて、ふと見ると、楽器を持ったグループが打ち合わせをしていた。近くにいた学生に自己紹介をし、大学のスケッチを見せると「今夜のコンサート…」といい、招待券をくれたのでお礼に絵はがきを配った。近隣大学によるコンサートはそれぞれ趣向が豊かで楽しく、ユースホステルの門限ギリギリまで見聞きし、後ろ髪を引かれる思いでホールを出た。

## ポルト

葡萄はドウロ川の上流で栽培・収穫し、船で運ばれポルトで醸造されてポートワインとなる。ユースホステルは5～6 kmほど下流の大西洋



ドウロ川の葡萄を運ぶ船

河口にあるので、近くの安ホテルに予約して行くと、受付は日本女性で親切に対応してくれた。しかし、ロビーやキッチンがないので他の客との交流ができない。そこで、夕食を隣のレストランで取ることにし、テラスで

食事中の若いふたりに話しかけて夕食とワインを共にした。すぐに快い酔いとともに笑いが出るようになりポルトの最初の夜から幸先良いスタートとなった。

サン・フランシスコ教会をスケッチしていると、丁度牧師が通り掛かって、私を誘って教会内部を色々説明してくれ、最後には牧師が、「特別な部屋」と言った通りの「荘厳な部屋」にまで案内してくれた。

ドウロ川を下って大西洋の河口の町フォッシュのユースホステルまで歩いた。「帰りはバスで」と決めて、道路から垣根越しにレストランの庭で休憩中の老夫妻にバス停を尋ねると、「まあ入



フォッシュの街並み



ドウロ川の葡萄を運ぶ船



サン・フランシスコ教会

っておいで。」とテーブルに誘われた。ご夫妻はイギリス人で「近くに別邸があり夏はそこで過ごしている。」と言った。絵はがきを渡すと、夫が画家と言うことで話が弾み、滞在先に招かれた。高台にあるマンションは数部屋あり、それぞれが広い。夫が描いたヌードの絵がたくさんかけてあり、風景の絵なども見せてもらった。高台なので見晴らしが良いのでテラスか

らスケッチをさせてもらい、美人の奥さんのポートレートも描かせてもらい渡した。比較的よく描けていたので画家の夫も喜んでくれて、ワイン付きの昼食もいただいた。奥さんは美人だったが若いメイドさんはもっと美人だった。

## 第1回新自然歴史探訪のお誘い 石材の島「北木島」を訪ねる

担当幹事 西 功

「自然歴史探訪は、そもそも岡山高退教の最も魅力的な行事であった」と言っても、お叱りを受けることはないでしょう。楽しみに待っている会員も多く、50回を区切りに見直しに入ったまま、コロナ禍が重なって長期の中止になっていることを残念がる声はよく聞かれるところです。

この「自然歴史探訪」は、故中田啓司先生の発案から始まった、観光に偏らない独自の視点から自然と歴史を訪ねるものでした。ですから、この度再出発となる「新自然歴史探訪 IN 北木島＝第1回新自然歴史探訪」も、その精神を裏切らないよう心掛けて企画したもののなのです。

北木島と言えば、近年はお笑い芸人の大悟の故郷の方が有名になってしまいましたが、本来の北木島は、何と言っても、石材の島。船を利用した海運による納期厳守と、良質で大きな石材が採れることにより、全国各地だけでなく海外にまで進出し、一大産地として君臨していました。江戸時代では大坂城の石垣にも使用されています。明治以降は日本の、産業の発展に呼応し石材の一大産地となりました。旧日本銀行本店、明治神宮、靖国神社などでも北木島の石が用いられています。第二次世界大戦をはさむしばらくの期間、石材産業は一次衰退しましたが、戦後の復興・経済成長期には再度著しく発展し、最盛期の1957年には花崗岩を採掘する丁場の数が127箇所もありました。その後、中国からの安価な輸入石材に押され石材の産出量は減少し、最盛期に127社あった採石業者は、現在ではたった2社だけしか残っていないという寂しい状況になっています。

私たちが訪ねる豊浦地区・金風呂地区には、表面を削り取られた山々が、かつて石材産業が繁栄を極めた痕跡を残すようにそびえています。また、採石場跡には雨水がたまってできた池である『丁場湖』も数多く残されています。

ところで、ここでは主な見学場所2か所のみを紹介します。詳しいコースなどは、案内書に掲載していますのでそちらをご覧ください。

### 〈見学場所の紹介〉

#### 『北木の桂林』

石の島として日本遺産に認定されている北木島に、中国の桂林の



北木の桂林

ような景色を楽しめる場所があります。そのうちの 하나가『北木島の桂林』と呼ばれるスポットです。旧今岡石材が採石場に用いていた場所です。掘り進めた採石場には雨水がたまり、池が形成されています。この風景が中国の桂林に似ている事から、北木島の桂林と呼ばれています。北木島の桂林を作り上げている重要な要素の一つであるのが、丁場湖です。採石場が現役で使用されている頃に深く掘り下げていった跡地に、雨水や湧き水などが溜まって形成された池の事です。その水深は最も深い所で20mにも及びます。

### 『石切りの溪谷展望台』

現在も採石が続いている丁場2か所のうちのひとつで、鶴田石材がこの場所で採石を始めたのは明治25年です。作業が機械化された昭和30年代以降に大きく掘り進められ、絶壁には130年近い歴史が刻まれています。この丁場では、機械化されてから、高品質の石を求めて地下深くへと掘り進み、その結果、天に向かってそそり立つ高さ100mの断崖絶壁が誕生しました。展望台から、採石の様子も見る事ができます。高さ約60mの石切りの溪谷展望台からその壮大な景色も堪能できます。展望台から見る風景は、想像をはるかに超え、一見の価値があります。



石切りの溪谷展望台

新自然歴史探訪の締めくくりは、北木西公民館で、「島おこし」の一つであるカキの養殖の話をお聞きいただけます。

会員の皆さん、初夏の海風を浴びながら、約1時間余のウォーキングと絶景を楽しみませんか。会員皆様の参加をお待ちしております。

## 岡山高退教会費の納入についてのお願い

### 事務局

2022年度の岡山高退教の活動は、コロナ禍の合間を縫って、総会を2年ぶりに開催(半日日程)することができ、恒例の作品展も多くの皆さんの出品により成功させることができました。支部別の交流行事や、自然歴史探訪も再開の運びとなり、ようやく高退教らしい親睦と交流の機会を持てるようになりました。今後とも、従前を上回るご参加・ご協力をよろしくお願い致します。

さて、ご案内の通り2023年度の高退教総会を6月25日(日)に行います。ご承知のように、岡山高退教は会員の会費という自主財源によって運営しております。健全財政のためには100%の年会費納入ということが必要となっています。

